



# ターミナル設定およびターミナルセッションの設定

---

この章では、Cisco NX-OS デバイスでターミナル設定およびターミナルセッションを管理する方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- [ターミナル設定およびターミナルセッションの概要 \(p.4-2\)](#)
- [ターミナル設定およびターミナルセッションのライセンス要件 \(p.4-3\)](#)
- [ターミナル設定の設定方法 \(p.4-4\)](#)
- [コンソールポートの設定 \(p.4-5\)](#)
- [COM1ポートの設定 \(p.4-7\)](#)
- [仮想端末の設定 \(p.4-9\)](#)
- [モデム接続の設定 \(p.4-11\)](#)
- [ターミナルセッションの切断 \(p.4-16\)](#)
- [ターミナル情報およびセッション情報の表示 \(p.4-17\)](#)
- [デフォルト設定 \(p.4-17\)](#)
- [詳細な資料 \(p.4-18\)](#)

## ターミナル設定およびターミナルセッションの概要

ここでは、次の内容について説明します。

- [ターミナルセッションの設定 \(p.4-2\)](#)
- [コンソールポート \(p.4-2\)](#)
- [COM1ポート \(p.4-2\)](#)
- [仮想端末 \(p.4-3\)](#)
- [モデムサポート \(p.4-3\)](#)
- [仮想化サポート \(p.4-3\)](#)

### ターミナルセッションの設定

Cisco NX-OS ソフトウェア機能により、以下のターミナルの特性を管理できます。

- **ターミナルタイプ** — リモートホストと通信するときに Telnet が使用する名前
- **長さ** — 一時停止するまでの間に表示されるコマンド出力の行数
- **幅** — 一行が折り返される前にその行に表示される文字数
- **非アクティブセッションのタイムアウト** — デバイスによって終了されるまでセッションが非アクティブのままになる時間 (分単位)

### コンソールポート

コンソールポートは、初期設定のために RJ-45 コネクタ付きの標準 RS-232 ポートを介してデバイスへ接続できる非同期シリアルポートです。このポートに接続するデバイスは、非同期伝送が可能である必要があります。次のコンソールポートパラメータを設定できます。

- **データビット** — データに使用するビット数を 8 ビットバイトで指定します。
- **非アクティブセッションのタイムアウト** — セッションを終了させるまでに、セッションを非アクティブにできる時間 (分単位) を指定します。
- **パリティ** — エラー検出に使用する奇数パリティまたは偶数パリティを指定します。
- **速度** — 接続の伝送速度を指定します。
- **ストップビット** — 非同期回線のストップビットを指定します。

ターミナルエミュレータを 9600 ボー、8 データビット、1 ストップビット、およびパリティなしに設定します。

### COM1ポート

COM1ポートは、モデムなどの外部シリアル通信装置への接続を可能にする DB-9 インターフェイスを使用した RS-232 ポートです。次の COM1 ポートパラメータを設定できます。

- **データビット** — データに使用するビット数を 8 ビットバイトで指定します。
- **ハードウェアフロー制御** — フロー制御ハードウェアをイネーブルにします。
- **パリティ** — エラー検出に使用する奇数パリティまたは偶数パリティを指定します。
- **速度** — 接続の伝送速度を指定します。
- **ストップビット** — 非同期回線のストップビットを指定します。

ターミナルエミュレータを 9600 ボー、8 データビット、1 ストップビット、およびパリティなしに設定します。

## 仮想端末

NX-OS デバイスを接続するには、仮想端末回線を使用できます。Secure Shell (SSH; セキュア シェル) および Telnet により、仮想端末セッションが生成されます。仮想端末の非アクティブセッションのタイムアウトおよび最大セッション制限を設定できます。

## モデム サポート

モデムは、スーパーバイザ モジュールの COM1 ポートまたはコンソール ポートに接続できます。次のモデムは、Cisco NX-OS ソフトウェアを実行するデバイスでテスト済みです。

- MultiTech MT2834BA (<http://www.multitech.com/PRODUCTS/Families/MultiModemII/>)
- Hayes Accura V.92 (<http://www.hayesmicro.com/Products/accura-prod-v92.htm>)



(注)

デバイスの起動時には、モデムを接続しないでください。「電源が投入されたデバイス用のモデムの初期化」(p.4-16) に明記されている手順に従ってください。

Cisco NX-OS ソフトウェアには、接続されたモデムを検出するためのデフォルトの初期化ストリングがあります (ATE0Q1&D2&C1S0=1\015)。デフォルトのストリングの内容は、次のとおりです。

- AT — アテンション
- E0 (必須) — エコーなし
- Q1 — 結果コードがオン
- &D2 — 通常の Data Terminal Ready (DTR; データ ターミナル レディ) オプション
- &C1 — データ キャリア ステート追跡のイネーブル化
- S0=1 — 1 つのリングのあとに応答
- \015 (必須) — 復帰 (8 進数)

## 仮想化サポート

デフォルト VDC で COM1 ポートとコンソール ポートを設定できます。ターミナルセッションおよび仮想端末は、デフォルト VDC と非デフォルト VDC の両方で設定できます。VDC の詳細については、『Cisco NX-OS Virtual Device Context Configuration Guide』 Release 4.0 を参照してください。

## ターミナル設定およびターミナルセッションのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
NX-OS	ターミナル設定のコンフィギュレーションにライセンスは必要ありません。ライセンス パッケージに含まれていない機能は Cisco NX-OS システム イメージにバンドルされており、無料で提供されます。NX-OS ライセンス スキームの完全な説明については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

## ターミナル設定の設定方法

ターミナルセッションについては、次のターミナルタイプとディスプレイ特性を設定できます。

- ターミナルタイプ
- 画面長
- 画面幅
- 非アクティブセッションのタイムアウト



(注)

これら設定に対して行った変更は、そのセッションの持続時間の間だけ有効です。

### 手順の要約

1. `terminal terminal-type type`  
`terminal length lines`  
`terminal width columns`  
`terminal session-timeout minutes`
2. `show terminal`

### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>terminal terminal-type type</code>	ターミナルタイプを設定します。 <code>terminal-type</code> ストリングでは大文字と小文字が区別され、有効なタイプである必要があります（たとえば、 <b>vt100</b> または <b>xterm</b> ）。最大文字数は 80 です。デフォルトタイプは、 <b>ansi</b> です。
	<code>switch# terminal terminal-type vt100</code>	
	<code>terminal length lines</code>	一時停止までにコマンド出力が表示される長さを表すターミナル長を設定します。範囲は 0 ~ 511 行です。0 を使用すると、出力表示中に一時停止は行われません。コンソールの初期のデフォルトは 0、仮想端末セッションの初期のデフォルトは 31 です。
	<code>switch# terminal length 24</code>	
	<code>terminal width columns</code>	コマンド出力が表示されるターミナル幅を設定します。範囲は 24 ~ 511 カラムです。デフォルトは 80 文字です。
	<code>switch# terminal width 70</code>	
	<code>terminal session-timeout minutes</code>	ターミナルセッションの非アクティビティタイムアウトを設定します。範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。0 分の値を設定すると、セッションタイムアウトはディセーブルになります。デフォルトは 0 です。
ステップ 2	<code>switch# terminal session-timeout 60</code>	
	<code>show terminal</code>	(任意) ターミナル設定を表示します。
	<code>switch# show terminal</code>	

## コンソールポートの設定

次のコンソールポート特性を設定できます。

- データビット
- 非アクティブセッションのタイムアウト
- パリティ
- 速度
- ストップビット

### 開始前の作業

コンソールポートにログインします。

デフォルト VDC にいることを確認します。

### 手順の要約

1. **configure terminal**
2. **line console**
3. **databits *bits***  
**exec-timeout *minutes***  
**parity {*even* | *none* | *odd*}**  
**speed {*300* | *1200* | *2400* | *4800* | *9600* | *38400* | *57600* | *115200*}**  
**stopbits {*1* | *2*}**
4. **exit**
5. **show line console**
6. **copy running-config startup-config**

### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>line console</b>  switch# line console switch(config-console)#	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

## ■ コンソールポートの設定

	コマンド	目的
ステップ 3	<code>databits bits</code>	バイトあたりのデータビット数を設定します。指定できる範囲は5～8です。デフォルトは8です。
	<code>switch(config-console)# databits 7</code>	
	<code>exec-timeout minutes</code>	非アクティブセッションのタイムアウトを設定します。範囲は0～525600分(8760時間)です。0分の値を設定すると、セッションタイムアウトはディセーブルになります。デフォルトは0分です。
	<code>switch(config-console)# exec-timeout 30</code>	
	<code>parity {even   none   odd}</code>	パリティを設定します。デフォルトは <b>none</b> です。
	<code>switch(config-console)# parity even</code>	
	<code>speed {300   1200   2400   4800   9600   38400   57600   115200}</code>	送信速度と受信速度を設定します。デフォルトは、 <b>115200</b> です。
	<code>switch(config-console)# speed 115200</code>	
	<code>stopbits {1   2}</code>	ストップビットを設定します。デフォルトは <b>1</b> です。
	<code>switch(config-console)# stopbits 2</code>	
ステップ 4	<code>exit</code>	コンソールコンフィギュレーションモードを終了します。
	<code>switch(config-console)# exit</code>	
	<code>switch(config)#</code>	
ステップ 5	<code>show line console</code>	(任意) コンソール設定を表示します。
	<code>switch(config)# show line console</code>	
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。
	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	

## COM1 ポートの設定

次の COM1 ポート特性を設定できます。

- データ ビット
- ハードウェアのフロー制御
- パリティ
- 速度
- ストップ ビット

### 開始前の作業

コンソール ポートまたは COM1 ポートにログインします。

デフォルト VDC にいることを確認します。

### 手順の要約

1. `configure terminal`
2. `line com1`
3. `databits bits`  
`flowcontrol hardware`  
`parity {even | none | odd}`  
`speed {300 | 1200 | 2400 | 4800 | 9600 | 38400 | 57600 | 115200}`  
`stopbits {1 | 2}`
4. `exit`
5. `show line console`
6. `copy running-config startup-config`

### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  switch# <code>configure terminal</code> switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>line com1</code>  switch# <code>line com1</code> switch(config-com1)#	COM1 コンフィギュレーション モードを開始します。

## ■ COM1 ポートの設定

	コマンド	目的
ステップ 3	<pre>databits bits  switch(config-com1)# databits 7</pre>	<p>バイトあたりのデータ ビット数を設定します。有効値の範囲は 5 ~ 8 であり、デフォルトは 8 です。</p>
	<pre>flowcontrol hardware  switch(config-com1)# flowcontrol hardware</pre>	<p>ハードウェアのフロー制御をイネーブルにします。デフォルトは <b>enabled</b> です。</p> <p>ハードウェアのフロー制御をディセーブルにするには、<b>no flowcontrol hardware</b> コマンドを使用します。</p>
	<pre>parity {even   none   odd}  switch(config-com1)# parity even</pre>	<p>パリティを設定します。デフォルトは <b>none</b> です。</p>
	<pre>speed {300   1200   2400   4800   9600   38400   57600   115200}  switch(config-com1)# speed 115200</pre>	<p>送信速度と受信速度を設定します。デフォルトは <b>9600</b> です。</p>
	<pre>stopbits {1   2}  switch(config-com1)# stopbits 2</pre>	<p>ストップ ビットを設定します。デフォルトは <b>1</b> です。</p>
ステップ 4	<pre>exit  switch(config-com1)# exit switch(config)#</pre>	<p>COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。</p>
ステップ 5	<pre>show line console  switch(config)# show line console</pre>	<p>(任意) コンソール設定を表示します。</p>
ステップ 6	<pre>copy running-config startup-config  switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	<p>(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。</p>



## 仮想端末の設定

ここでは、次の内容について説明します。

- [非アクティブセッションのタイムアウトの設定 \(p.4-9\)](#)
- [セッション制限の設定 \(p.4-10\)](#)

## 非アクティブセッションのタイムアウトの設定

非アクティブ仮想端末セッションのタイムアウトは、VDC で設定できます。

### 手順の要約

1. `configure terminal`
2. `line vty`
3. `exec-session minutes`
4. `exit`
5. `show running-config all | begin vty`
6. `copy running-config startup-config`

### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  switch# <code>configure terminal</code> switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>line vty</code>  switch# <code>line vty</code> switch(config-line)#	ライン コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>exec-session minutes</code>  switch(config-line)# <code>exec-session 30</code>	VDC の非アクティブセッションのタイムアウトを設定します。範囲は 0 ~ 525600 分 (8760 時間) です。0 分の値を設定すると、タイムアウトはディセーブルになります。デフォルトは 0 です。
ステップ 4	<code>exit</code>  switch(config-line)# <code>exit</code> switch(config)#	ライン コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<code>show running-config all   begin vty</code>  switch(config)# <code>show running-config all</code>   <code>begin vty</code>	(任意) 仮想ターミナル設定を表示します。

## ■ 仮想端末の設定

	コマンド	目的
ステップ 6	<pre>copy running-config startup-config  switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## セッション制限の設定

デバイス上の仮想端末セッションの数を制限できます。

## 手順の要約

1. `configure terminal`
2. `line vty`
3. `session-limit sessions`
4. `exit`
5. `show running-config all | begin vty`
6. `copy running-config startup-config`

## 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<pre>configure terminal  switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	<pre>line vty  switch# line vty switch(config-line)#</pre>	ラインコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	<pre>session-limit sessions  switch(config-line)# session-limit 10</pre>	VDCの仮想セッションの最大数を設定します。範囲は1～64で、デフォルトは32です。
ステップ 4	<pre>exit  switch(config-line)# exit switch(config)#</pre>	ラインコンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 5	<pre>show running-config all   begin vty  switch(config)# show running-config all   begin vty</pre>	(任意) 仮想ターミナル設定を表示します。
ステップ 6	<pre>copy running-config startup-config  switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## モデム接続の設定

COM1 ポートまたはコンソールポートのいずれかにモデムを接続できます。



ヒント

モデムは、COM1 ポートに接続することを推奨します。

ここでは、次の内容について説明します。

- モデム接続のイネーブル化 (p.4-11)
- デフォルトの初期化ストリングのダウンロード (p.4-12)
- ユーザ指定の初期化ストリングの設定およびダウンロード (p.4-14)
- 電源が投入されたデバイス用のモデムの初期化 (p.4-16)

### モデム接続のイネーブル化

モデムを使用する前に、ポートでモデム接続をイネーブルにする必要があります。

#### 開始前の作業

コンソールポートにログインします。

#### 手順の要約

1. `configure terminal`
2. `line com1`  
`line console`
3. `modem in`
4. `exit`
5. `show line`
6. `copy running-config startup-config`

#### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  switch# <code>configure terminal</code> switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>line com1</code>  switch# <code>line com1</code> switch(config-com1)#  <code>line console</code>  switch# <code>line console</code> switch(config-console)#	COM1 コンフィギュレーション モードを開始します。  コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

## ■ モデム接続の設定

	コマンド	目的
ステップ 3	<code>modem in</code>	COM1 ポートでモデム入力をイネーブルにします。
	<code>switch(config-com1)# modem in</code>	
ステップ 4	<code>modem in</code>	コンソール ポートでモデム入力をイネーブルにします。
	<code>switch(config-console)# modem in</code>	
ステップ 4	<code>exit</code>	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。
	<code>switch(config-com1)# exit</code> <code>switch(config)#</code>	
ステップ 5	<code>exit</code>	コンソール コンフィギュレーション モードを終了します。
	<code>switch(config-console)# exit</code> <code>switch(config)#</code>	
ステップ 5	<code>show line</code>	(任意) コンソール設定および COM1 設定を表示します。
ステップ 6	<code>switch(config)# show line</code>	
	<code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	

## デフォルトの初期化ストリングのダウンロード

The Cisco NX-OS ソフトウェアは、モデム接続に使用できるダウンロード可能なデフォルトの初期化ストリングを提供します。デフォルトの初期化ストリングは、ATE0Q1&D2&C1S0=1\015 です。

## 開始前の作業

コンソール ポートにログインします。

## 手順の要約

1. `configure terminal`
2. `line com1`  
`line console`
3. `modem init-string default`
4. `exit`
5. `show line`
6. `copy running-config startup-config`

## 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>configure terminal</code>  switch# <code>configure terminal</code> switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>line com1</code>  switch# <code>line com1</code> switch(config-com1)#	COM1 コンフィギュレーション モードを開始します。
	<code>line console</code>  switch# <code>line console</code> switch(config-console)#	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>modem init-string default</code>  switch(config-com1)# <code>modem init-string default</code>	デフォルトの初期化ストリングをモデムに書き込みます。
	<code>modem init-string default</code>  switch(config-console)# <code>modem init-string default</code>	デフォルトの初期化ストリングをモデムに書き込みます。
ステップ 4	<code>exit</code>  switch(config-com1)# <code>exit</code> switch(config)#	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。
	<code>exit</code>  switch(config-console)# <code>exit</code> switch(config)#	コンソール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	<code>show line</code>  switch(config)# <code>show line</code>	(任意) コンソール設定および COM1 設定を表示します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>  switch(config)# <code>copy running-config startup-config</code>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ユーザ指定の初期化ストリングの設定およびダウンロード

デフォルトの初期化ストリングがご使用のモデムに適合しない場合は、独自の初期化ストリングを設定およびダウンロードできます。

### 開始前の作業

コンソール ポートにログインします。

### 手順の要約

1. **configure terminal**
2. **line com1**  
**line console**
3. **modem set-string user-input *string***
4. **modem init-string user-input**
5. **exit**
6. **show line**
7. **copy running-config startup-config**

### 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<b>configure terminal</b>  switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<b>line com1</b>  switch# line com1 switch(config-com1)#	COM1 コンフィギュレーション モードを開始します。
	<b>line console</b>  switch# line console switch(config-console)#	コンソール コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンド	目的
ステップ 3	<pre>modem set-string user-input string</pre> <pre>switch(config-com1)# modem set-string user-input ATE0Q1&amp;D2&amp;C1S0=3\015</pre>	<p>COM1 ポート用のユーザ指定の初期化ストリングを設定します。初期化ストリングは、英数字で指定します。大文字と小文字が区別され、特殊文字を含めることができ、最大文字数は 100 です。</p> <p> (注) ストリングを初期化する前に、まずユーザ入力ストリングを設定する必要があります。</p>
	<pre>modem set-string user-input string</pre> <pre>switch(config-console)# modem set-string user-input ATE0Q1&amp;D2&amp;C1S0=3\015</pre>	<p>コンソール ポート用のユーザ指定の初期化ストリングを設定します。初期化ストリングは、英数字で指定します。大文字小文字が区別され、特殊文字を含めることができ、最大文字数は 100 です。</p> <p> (注) ストリングを初期化する前に、まずユーザ入力ストリングを設定する必要があります。</p>
ステップ 4	<pre>modem init-string user-input</pre> <pre>switch(config-com1)# modem init-string user-input</pre>	COM1 ポートに接続されるモデムに、ユーザ指定の初期化ストリングを書き込みます。
	<pre>modem init-string user-input</pre> <pre>switch(config-console)# modem init-string user-input</pre>	コンソール ポートに接続されるモデムに、ユーザ指定の初期化ストリングを書き込みます。
ステップ 5	<pre>exit</pre> <pre>switch(config-com1)# exit switch(config)#</pre>	COM1 コンフィギュレーション モードを終了します。
	<pre>exit</pre> <pre>switch(config-console)# exit switch(config)#</pre>	コンソール コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 6	<pre>show line</pre> <pre>switch(config)# show line</pre>	(任意) COM1 設定およびコンソール設定を表示します。
ステップ 7	<pre>copy running-config startup-config</pre> <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	(任意) 実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

## ■ ターミナルセッションの切断

## 電源が投入されたデバイス用のモデムの初期化

電源が投入された物理デバイスにモデムを接続する場合は、使用する前にモデムを初期化する必要があります。

## 開始前の作業

デバイスが起動シーケンスを完了し、システムイメージが実行されている状態になるまで待ってから、デバイスの COM1 ポートまたはコンソールポートのいずれかにモデムを接続します。

ポートのモデム接続をイネーブルにします（「[モデム接続のイネーブル化](#)」 [p.4-11] を参照）。

## 手順の要約

1. `modem connect line {com1 | console}`

## 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>modem connect line {com1   console}</code>  <code>switch# modem connect line com1</code>	デバイスに接続されたモデムを初期化します。

## ターミナルセッションの切断

デバイスのターミナルセッションを切断できます。

## 手順の要約

1. `show users`
2. `clear line name`

## 詳細な手順

	コマンド	目的
ステップ 1	<code>show users</code>	(任意) デバイスのユーザセッションを表示します。
ステップ 2	<code>clear line name</code>  <code>switch# clear line pts/0</code>	特定の回線のターミナルセッションを切断します。回線名では、大文字と小文字が区別されます。



## ターミナル情報およびセッション情報の表示

ターミナル情報およびセッション情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

コマンド	目的
<code>show terminal</code>	ターミナル設定を表示します。
<code>show line</code>	COM1 ポートおよびコンソール ポートの設定を表示します。
<code>show users</code>	仮想端末セッションを表示します。
<code>show running-config [all]</code>	実行コンフィギュレーションのユーザ アカウント設定を表示します。 <code>all</code> キーワードを指定すると、ユーザ アカウントのデフォルト値が表示されます。

これらのコマンド出力のフィールドの詳細については、『*Cisco NX-OS Fundamentals Command Reference*』 Release 4.0 を参照してください。

## デフォルト設定

表 4-1 に、ターミナル表示のデフォルト設定およびセッションパラメータを示します。

表 4-1 デフォルトのターミナル表示およびセッションパラメータ

パラメータ	デフォルト
ターミナル タイプ	<code>ansi</code>
ターミナル長	コンソールセッションでは 0 行 仮想端末セッションでは 31 行
ターミナル幅	80 カラム
ターミナルの非アクティブセッションのタイムアウト	Disabled (0 分)
コンソールセッションのデータ ビット	8
コンソールの非アクティブセッションのタイムアウト	Disabled (0 分)
コンソールセッションのパリティ	<code>none</code>
コンソールセッションの速度	11520 bps
コンソールセッションのストップ ビット	1
COM1 セッションのデータ ビット	8
COM1 ハードウェアのフロー制御	Enabled
COM1 セッションのパリティ	<code>none</code>
COM1 セッションの速度	9600 bps
COM1 セッションのストップ ビット	1
仮想端末の非アクティブセッションのタイムアウト	Disabled (0 分)
仮想端末セッションの制限	32
モデムのデフォルト初期化ストリング	<code>ATE0Q1&amp;D2&amp;C1S0=1\015</code>

## 詳細な資料

図1の実装に関連する詳細情報は、次のとおりです。

- [関連資料 \(p.4-18\)](#)

## 関連資料

関連トピック	マニュアルタイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』 Release 4.0
コマンドリファレンス	『Cisco NX-OS Fundamentals Command Reference』 Release 4.0